進路だより

令和８年９月２４日【第２号】
東京都立八王子南特別支援学校
校長　　山﨑　裕之
発行　　進路指導部

日頃より本校の教育活動や進路における取り組みについて、御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。２学期始業式を迎えましたが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。また保護者の皆様も夏季休業期間中においては、進路行事や進路面談への御協力をいただき、誠にありがとうございました。

１年生においては夏季休業期間を利用して、将来の進路先について学ぶ「事業所見学会」を設定いたしました。詳細については今号の記事から様子を感じていただけたらと思いますが、参加された皆様が真剣な様子で参加されていることが伝わってきました。

２年生は初めての現場実習を体験し、社会で働くことへの期待や憧れとともに、働くことの厳しさも感じることができたのではないでしょうか。この経験を活かして、次回の現場実習をより良い学習機会としてほしいと思います。

そして３年生はいよいよ、進路を決める時期となります。学校生活も残り少なくなり、社会生活への移行期を迎えることができるように、自分自身の意識を高めることがとても重要です。

保護者の方も御家庭で生徒たちを支えていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

１学期　現場実習の様子



「生活介護事業所」
職員さんと協力して頑張りました。



「就労継続支援Ｂ型事業所」
商品の袋詰めです。



「特例子会社（川崎市）」
この日はリサイクルかご作りです。



「レストラン」
お客様に商品提供しました。

町田通勤寮

７月 22 日（水）午前と午後の２回にわたり、町田通勤寮にて見学会を行いました。当日はつるかわ学園全体の説明から、通勤寮の特徴について、利用にあたっての注意点やルールなど、担当の方より丁寧な説明がありました。その中で、通勤寮では自立に向けた様々な経験ができ、不安があればすぐにスタッフに相談できることが大きな利点であると、お話しがありました。

その後、実際に通勤寮の中を見学し、生活の様子をより実感できる機会となりました。提供される美味しそう食事や、洗濯を自分で行うなどの情報を得つつ、一方で二人部屋での生活に少し不安を覚える生徒もいました。職員さんから、そういった生活も始めは戸惑うと思うが、必ず良い経験になるとアドバイスをいただけました。



立川福祉事業所

７月 27 日(月)午前、立川福祉作業所内の見学を行いました。１Ｆにはパン工房と販売所が一体となっている場所があり、焼き立てのパンを買うことができます。業務内容は封筒の仕分け、封入、書類裁断、箱作り等の受注作業の他、パン製造もあります。現場では、作業内容毎に細かく分担して作業で進んでいました。昼休みは食堂で昼食をとったり、屋上で体を動かしたり、くつろいだりできる場所があります。

立川福祉作業所は多機能型事業所（就労移行支援、就労継続支援Ｂ型、生活介護）となっており、就労移行支援からの企業就労の実績もあるようです。

事業所の職員さんからのお話では、「卒業後の生活の中で『困った時に助けを求める力』や『一人で買い物や通勤などができる力』があると生活をより豊かに広げていける」とのお話がありました。

在学中の過ごし方についても、アドバイスをいただくことができた見学会となりました。



ウェルハーツ小田急

７月 22 日（水）、小田急グループの特例子会社である「株式会社ウェルハーツ小田急」へ見学に伺いました。同社では清掃や事務・庶務を主な業務としており、毎日様々な駅に出向いて清掃を行っています。

当日は相模大野駅にて、普段は入ることのできない専用の通用口から中へ入れていただき、休憩室や洗面所の清掃の様子を見学しました。清掃中の社員の皆様はチーム内で連携し、利用する方が気持ちよく過ごせるよう、私語を一切せずに集中して業務に取り組まれていました。見学した生徒たちにとって真摯に仕事に取り組む姿勢は大きな刺激となり、大変参考になりました。



後半の講話では、「仕事に誇りと責任を持つことが大切である」というお話をいただきました。「自分たちも運転士の方々と同じように、電車を動かしている一員なのだ」という強い誇りを持って仕事に向き合っているという言葉が、とても印象的でした。

生徒たちにとっても、働くことの意味やりがいについて深く考える大変貴重な機会となりました。

就労支援センター訪問

夏季休業中、企業就労を希望している高等部２年生を対象とした、就労支援センターの説明会を実施いたしました。

説明会では、卒業後の生活や就労に向けて、就労支援センターの役割や利用方法、今後の支援の流れについてなど、各市の担当の方から御説明いただきました。今回の説明会を通して、就労後の生活を具体的にイメージする機会にしていただけますと幸いです。

次回の訪問は、就労先が決定した後となります。実際に就労支援センターへ登録するための手続きを行う予定です。

卒業後も安心して、地域で生活や就労を続けられるよう、御家庭と学校、関係機関が連携しながら支援をしてまいります。引き続き、御協力のほどよろしくお願いいたします。

改めまして、お忙しい中、御参加、御協力いただきまして、ありがとうございました。

「あとがき」

冒頭にも書きましたが、保護者の皆様にはこの夏休み期間中も様々な場面で御協力をいただき、誠にありがとうございました。

今年は新たに「就労選択支援」という、障害福祉サービスがスタートしております。この夏休み期間中も数名の３年生の生徒が実施しましたが、進路決定においては社会の流れとして「本人の意思」がとても重要視されていることを実感しています。とは言え、尊重し過ぎてミスマッチを引き起こしてしまうことが無いように、適切な自己理解を同時に深めていくことも大切です。

そのため２年生からは進路面談を複数回実施させていただき、現場実習で得られる「評価」と、学校の授業での様子から現状の力量を把握し、生徒本人の希望、保護者の思いと照らし合わせながら、将来の進路についてその都度確認させていただくようにしています。

現場実習でいただく評価について詳しく記しますと、企業や福祉事業所などから学校・保護者以外の「第三者の立場」として、評価を出していただいております。その評価から生徒は自分の「長所」や「課題」を把握し、

「ここは褒められたから、さらに自信をもって頑張ろう！」

「この指摘された課題は、次回までに修正できるようにしよう！」

と、学校での授業に意欲をもって取り組むための学習ツールとして活用しております。

最後に一般論になりますが、現場実習先からの評価が高い生徒の傾向として、

①「おはようございます」など、あいさつや礼儀がしっかりしている

＊必要なコミュニケーションが取れるという判断につながる。

②報告・連絡・相談ができる

＊何につまずいているかなどが分かりやすく、業務の改善に向けて一緒に取り組みやすいという判断につながる。

③遅刻や欠席がない（少ない）＊特に企業

＊安心して一定の仕事を任せられるという判断につながる。

この３点について評価が高い生徒は、「また実習来てください」と、先方よりお誘いをいただくことが多いです。

現場実習を経験されていない１年生の生徒の皆さん、保護者の皆様にはぜひ知っておいていただければと思い、ここに記しました。

それでは２学期以降もどうぞよろしくお願いいたします。